

赤口酔い えっち本

R-18



アジサイデザイン

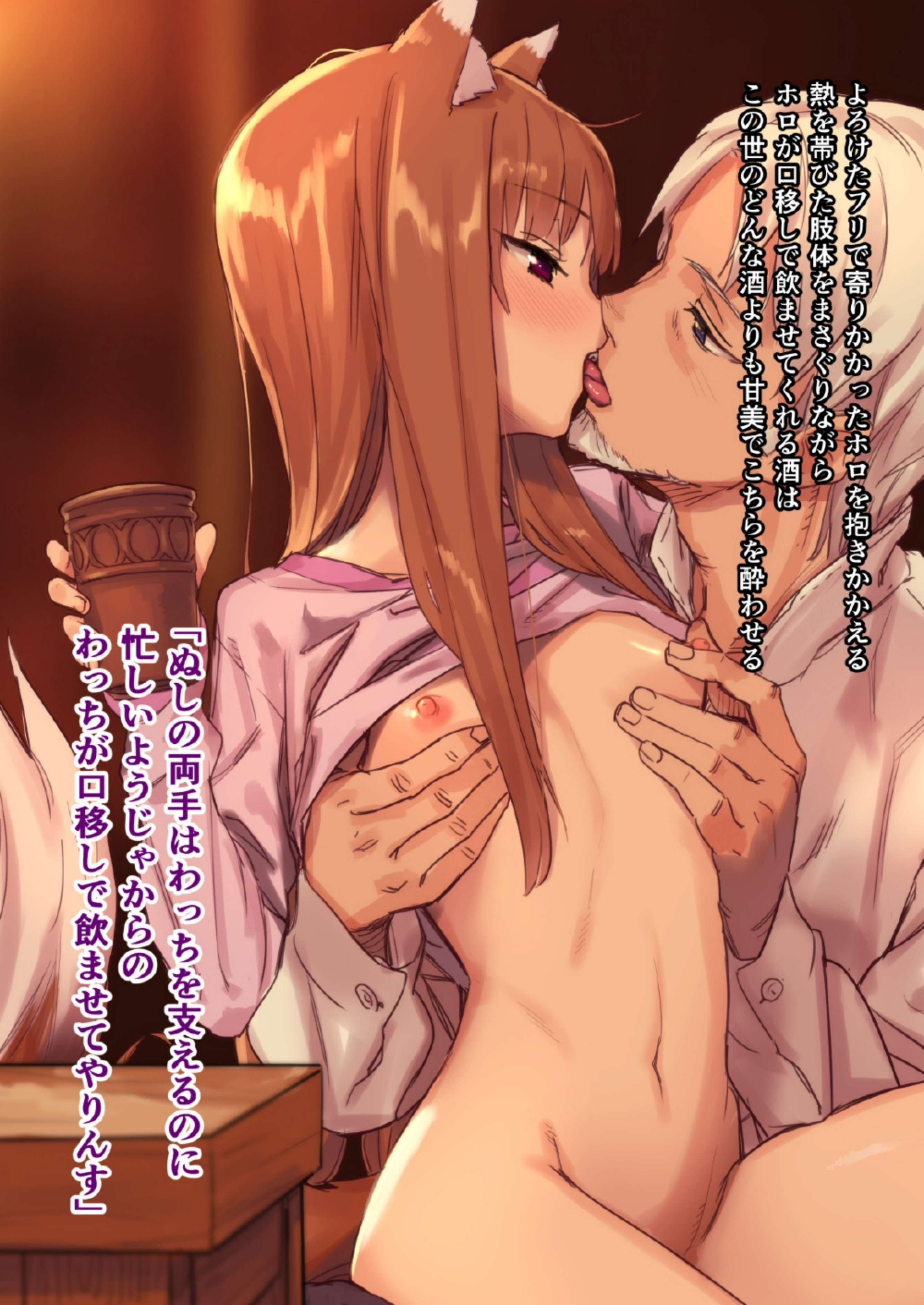
「なんだか酔いが回って
体が火照ってきんす♡」

酒の力を借りた晩はホロも

その賢狼の毛皮をいつもより大胆に脱いでくれる

そんなホロを前にして賢者であろうと
したらそれはむしろ愚かなことだろう





よるけたフリで寄りかかったホロを抱きかかえる
熱を帯びた肢体をまさぐりながら
ホロが回移しで飲ませてくれる酒は
この世のどんな酒よりも甘美でこちらを酔わせる

「ぬしの両手はわっちを支えるのに
忙しいようじゃからの
わっちが回移しで飲ませてやりんす」

「くふふっ」

体も心も火照ってどうにかかなりそうじゃぬしよ鎮めてくりやれ♥」

口づけを交わしながらホロを抱きかかえベッドに運ぶと裸になったホロが潤んだ瞳でこちらを誘ってくる

こちらも裸になりホロの上気した肌に口づけししつとりと浮かんだ汗を舐めとってらく

敏感な尻尾のまわりに

口づけを降らすと

こぞばゆそらな声を上げながら

おしりを震わせる

そのままおしりを舐めながら

秘部に指を差し込むと

熱で溶けたように蜜がぬめって

柔肉が指に絡みつく

「あ…っ♡

そこを舐められると…

ズクズクして尻尾の毛が

逆だつてしまひんす」

絡みついた蜜をなじませるように

優しく指でかき混ぜていると

間もなくホロの腰が跳ね

シートに垂れるほどの蜜が溢れ出た



「今度はわっちがぬしのを
可愛がってやりんす♥」

そういうとホロが一物を口に含み
こちらの反応を見ながら
唇をすぼめて舌を絡ませて出し入れする

愛おしさと
とろけるような心地よさに
ホロの頭をなでてやると
嬉しそうにさらに熱っぽく
舌を絡めてきた

こちらの弱点を全て把握しているような
ホロの舌使いに為す術もなく精を
吐き出してしまおう

美味しいものではないと言いながらも
ホロはいつも喉で受け止めてくれる

「こんなにたくさん出されては
飲みきれぬのう

濃い雄の味と臭いに
酔ってしまいそうじゃ♥」

飲みきれなかったものを舐め取りながら
さらに一物を刺激してくるので
全く萎える暇などはない

「今度はこっちでぬしの子種を
たんまりと飲ませてくりゃれ♥」

シラフの時にはしないような
あられもない姿でホロは
とろとろの秘部を見せてつけて誘惑してくる

自分にだけ見せてくれる
発情した雌の姿に愛おしさと
劣情が同時にこみ上げてきて
吸い寄せられるように
ホロの腹の中に自分の猛りを沈めてらる

刺激の強さに
互いを慣らすように
ゆくりとした動きで
ホロの中を優しく
かき混ぜてゆく

狭く濡れそぼったホロの中は
少し動くだけでも
腰を溶かすような心地よさがある

それはホロも同じように
こちらを愛おしそらに見つめながら
腰の動きにあわせて
可愛らしい喘ぎ声を漏らしている

「ぬしの一物はわっちの
気持ちいい部分を全部
分かっているようにやな♥
まるでわっち専用の鍵じや」

「ああ…ぬしよっ
もっともっど…ぬしの猛りを
腹の奥で感じさせてくりやれ…っ」

次第に動きを大きく早くしていくと
ホロの柔肉が絡みつき引き出され
押し込まれる様子が
触覚的にも視覚的にも
劣情を掻き立てる

ホロも回数が少なくなり
快楽に全身を震わせている

こちらも限界が近づき
ホロの腰を持ち
絡みつく柔肉をかき混ぜ
ホロの腹の奥を
何度も突き上げる

回づけをしながら
ホロの最奥で先程よりも長く
あふれるほどに精を放つ
その間ホロも絶頂の
揺り返しがきているように
何度も体を震わせ
蜜の飛沫をあげながら
子種を受け止めている

「くふふ
腹奥がこじ開けられるかと
思うほど子種が出たのう

射精が収まると
ホロの頭に回づけしながら
ゆっくり腰を前後させる
そうやって余韻を楽しんでいると
また一物が熱を帯び始めた

じゃがまだぬしの熱は
冷めておらぬようじゃな？」

「今度はそっちの穴かや？
: たわけ

まあぬしはそっちで
やる時は

いつもより優しくして
くれるからの♡」

特別に機嫌がいい時は
もう一つの穴ですることを
許してくれる

実はホロは尻尾があるためか
こちらが大分感じるようなのだが
賢狼的にはちよつと認めがたいようだ

ホロの緊張を解くために
逆立った尻尾の手をなでながら
前より窮屈な尻穴をゆ〜くりと
こじ開け慣らしてゆく

ゆったりとした動きで
尻尾の付け根と
前側の弱いところを
内側から刺激するように
擦っているとホロの喘ぎ声
がどんどん大きくなっていく

「たわけ…
わっちは尻穴で感じてなど…っ」

きつく締め付け絡みつくはらわたの
強烈な快楽に耐えながら
賢狼としての自尊心を
うちからこそぎ落とすように
何度も何度もホロの尻穴を
往復し続ける

「あ…だめじゃ
わっちはこのままでは
尻穴で達するすけべな狼に
なってしまうんす…っ」

「ああ…ぬしよだめじや
こんな姿見んでくりやれ…っ」

長く深い後ろのまぐわいに抗いきれず
全身を震わせホロは絶頂した

粗相をしてしまったのは酒のせいもあるだろうが
よほど快樂が大きかったのだろう

減多にみることでできないホロの痴態に
興奮しました股間を猛らせてしまう
それを見てホロは呆れつつも
次は何をするか聞いてくるのだった

「くふふ
今夜は酒ではなく
愛欲に溺れてしまいいんす」



◇ 奥付 ◇

「ホロ酔いえっち本」

発行：アジサイデンデン

発行日：2016.12.31(Comic Market91)

印刷所：プリントネット様

H P : <http://ajisaidenden.x.fc2.com>

MAIL:ajisaidenden.com

